

「ミゼアセーフ™X」を利用した 透析における新固定法について



医療法人社団愛友会 蓮田一心会病院

後列左より

高橋 智恵子(外来看護科) 内山 隆(放射線科) 矢島 世位太(臨床工学科)

藤井 渚(看護部褥瘡管理室 主任)(皮膚・排泄ケア特定認定看護師)

前列左より

関根 恵理(透析看護科 主任) 高村 敦美(医療安全管理者 看護主任)

森田 望(臨床工学科 主任)

はじめに

当院では、入院・外来を含め、日々多く(平均約270名)の透析患者が来院されている。来院患者の多くは高齢化に伴う認知症や皮膚が脆弱化した例がみられ、その数は更に増加傾向にある。厚労省統括研究報告*1では抜針事故の52.3%が自己抜針事故であり、『高い抜針リスク』と脆弱な皮膚への『粘着力の高いテープ固定の難しさ』は当院でも課題とされている。

医療安全チームにおいて院内抜針事故の検証実験を行った結果、針が抜けかけた状態では大量出血が生じても静脈圧警報が鳴らず、完全に抜針されて初めて警報がなることが確認できた。つまり抜針が発見されるまでには少なからず時間を要し、抜針が送血側で起これば、4～6分でショック状態に陥り生命に関わるリスクが考えられる(一般的に体内20～30%の血液を失うと失血性ショックを引き起こすと言われている)。安全に多くの患者の透析を行うためには、透析時の抜針対策として患者の状態を十分観察し、予防ケアに努めることが重要と考えられた。

そこで医療安全対策チーム内で抜針対策のチームを発足し、アセスメントスコアにて予防対策を段階的に行うスクリーニングを実行。より有効な固定方法とコスト管理を検討し、状況に応じた固定方法にて段階的に対応できるよう掲示した。最重要項目は実用に耐え得る固定力であり、様々な製品を取り寄せ試用、検証を行い、その固定方法を検討した。

さまざまな方向への強化固定を目的に選定した結果、(株)ニトムズより発売されているドレーン・チューブ類固定補助定テープ「ミゼアセーフ™X」を使用した新固定方法を抜針対策の一つとして採用することにした。院内で運用する「アセスメントシート」と「ケアフローチャート」と共に ドレーン・チューブ類固定補助テープ「ミゼアセーフ™X」の使用経験2例を紹介する。

*1 平成17年度厚生労働科学補助金(医療技術評価総合研究事業) 総括研究報告書「透析施設におけるブラッドアクセス関連事故防止に関する研究」
山崎 親雄他(日本透析医会雑誌冊Vol.21 No.2 2006)

目的

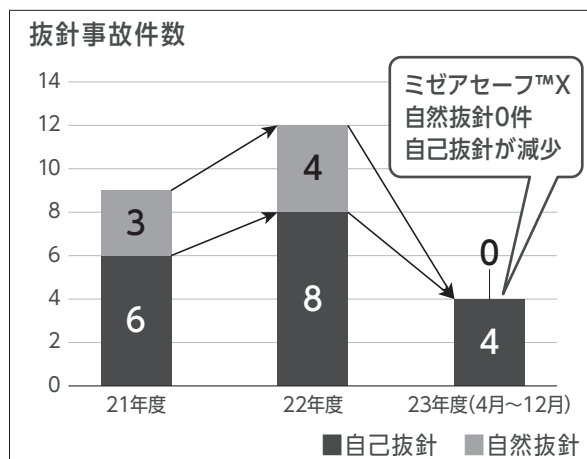
チューブ・ドレーン類固定補助テープ「ミゼアセーフ™X」を導入し、アセスメント作成やスタッフ教育を同時に行い、当院における自己抜針・自然抜針防止を目指す。

方法

医療安全委員で抜針予防アセスメントシートを作成、運用を開始しハイリスク群及び抜針事故の集計と分析を行った。抜針ハイリスク患者を対象とし、調査期間を2023年4月から2023年12月までとした。

結果

2022年度で12件発生した抜針事故が2023年度は4件に減少(4件は自己抜針で、自然抜針は0件)。「ミゼアセーフ™X」導入後、月別患者毎の新抜針リスクアセスメントが定着した。



透析自己抜去リスクアセスメントシート

1. 患者の情報収集と抜針リスクアセスメント

方法:毎月1回該当する項目に☑する

- ➡評価項目が1つでも該当する場合にはリスクありと判断
- ➡固定方法の検討をする。

2. 適切な針固定を実施する。

3. アクセス部位の観察の徹底

返血側の針が抜けた場合、透析監視装置の警報が鳴らないケースもあることを念頭に置き、可能な限りアクセス部位を布団で覆うことはせず常時観察できるよう工夫する。また警報が鳴った場合は、それをリセットする前に必ずアクセス部位を観察することを徹底する。

- (1)穿刺針と血液回路の接続や固定の際に、しっかり接続や固定が行われているか、施行者は指差し・声出しを行いながら確認作業を行う。
自分の責任で安全かつ確実に行われたという確認のためにも指差しは必要。
- (2)リスク状態に合わせた見守りや確認頻度を設定する。
- (3)目の届きやすい通路側などベッドコントロールを工夫する。
- (4)固定による違和感にて不穏などが生じる場合には、状況に応じて医師に報告し、不穏に対する薬剤等の検討を行う。
- (5)患者本人の協力が得られにくい場合は、家族にあらかじめ状況を伝え理解を得る。
- (6)理解力のある患者には、体動に伴い抜針事故の危険があること、職員側が想定している体動範囲を説明し、不用意な体動に伴う抜針事故を防ぐ努力を行う。
- (7)日々、透析中の急な体動の有無、不穏行動の有無に注意して観察し、適宜固定強化が必要な場合には確認する。

4. 抜針発生時の対応

抜針発生

- ➡止血対応、医師報告、観察(出血量、随伴症状、意識レベル、バイタルサイン)
- ➡補液の指示に沿った対応、症状に対する対応、一連の対応について経過記録に残す。※急変時記録に準じる。

記録に残す内容

- ・日時
- ・自己抜針か否か
- ・抜針部位(AorVまたは両方)
- ・透析開始何時間何分後か
- ・バスキュラーアクセスの形状と穿刺部位
- ・使用していた穿刺針の種類と長さ(A、V)
- ・穿刺針の留置状態(全部、2/3、1/2、1/2以下)
- ・使用していたテープの状況
- ・固定中のその他使用していた抑制具の有無等
- ・患者本人の動きの状態

貼付手順

ミゼアセーフ™Xの貼付方法は、
ニトムズホームページに記載の方法で行った。



透析自己抜針リスクアセスメントシート

該当する項目に☑する➡評価項目が1つでも該当する場合にはリスクありと判断➡固定方法の検討をする。

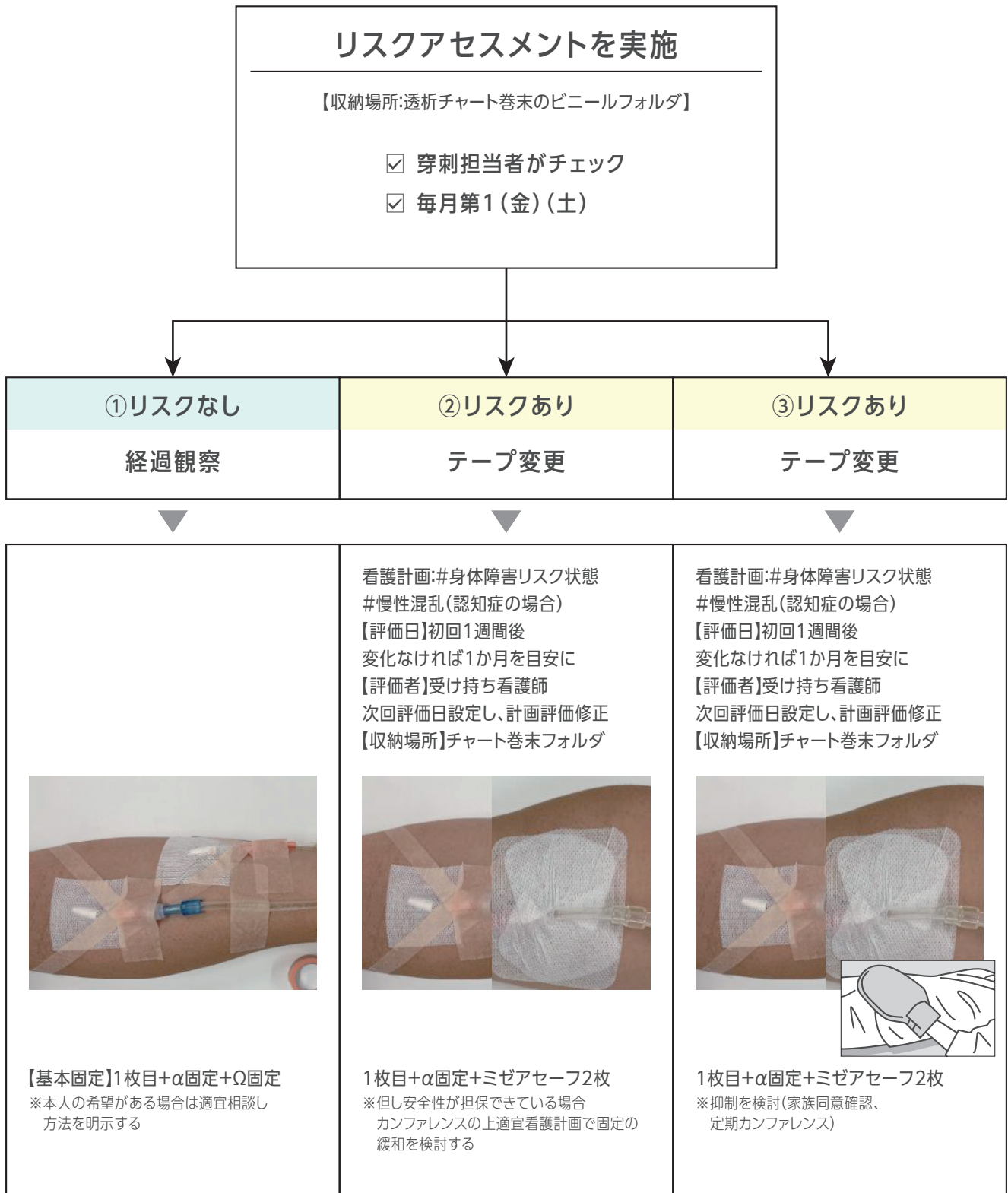
リスク評価

- ①リスクなし患者(不意に引っ掛ける水平方向の強化)
- ②1つでもリスク項目該当あり患者(強化固定)
- ③リスク項目該当ありかつ安静保持困難認知症患者(強化固定、抑制)

日付	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年
評価者							
抜針歴がある							
注意力・判断力の低下 認知症あり (長谷川式 20点以下/30点で認知症 疑い)							
臥床して いられない 起き上がり 行動がある							
透析治療 中にリハビリ を行っている							
リスク評価	① ② ③ その他	① ② ③ その他	① ② ③ その他	① ② ③ その他	① ② ③ その他	① ② ③ その他	① そ
看護計画	あり/なし	あり/なし	あり/なし	あり/なし	あり/なし	あり/なし	あり

- ✓ 穿刺担当者がチェックしてください。
- ✓ 毎月第1(金)(土)に行うこと。

透析抜針予防ケアフローチャート



チューブの固定は
リスクあり/なしに関わらず、
ループ固定とする。



使用例報告

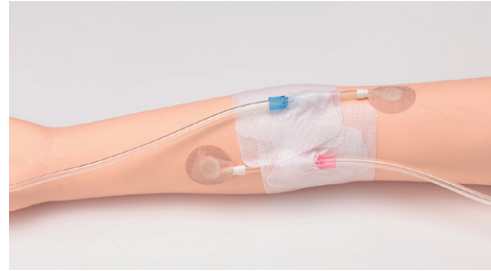
●使用例1: 80歳 脳梗塞・認知症 男性 透析歴3年

通常の固定方法とミトンによる抑制にて透析を行っていたところ、2022年6月と11月に2件の抜針去事故が発生。輸血と緊急入院による経過観察を要した。ベッド位置もスタッフから目視で監視できる範囲で対応していたが、認知症のため(長谷川式簡易知能評価スケール9点)そわそわと落ち着かない様子が頻りに観察された。また、ミトンを外し固定テープをはがそうとする行動が見られた。抜針事故後も繰り返し上記の行動が観察されたため、事故予防のために「ミゼアセーフ™X」を使用した新固定法を試みた。新固定法を使用してから抜針事故は起きておらず、抜去リスクの低減につながっている。患者がテープの違和感で剥がすこともないので、自己(事故)抜針を防ぐという点でもリスク低減になった。

【従来の固定】



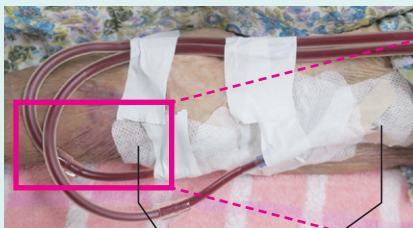
【ミゼアセーフ™Xを用いた固定】



●使用例2: 78歳 認知症なし 女性 透析歴30年

透析歴が長く、皮膚の脆弱性から剥離刺激の少ない医療用テープにて固定を図っていた。認知症はないが(長谷川式簡易知能評価スケール21点)、不意な動作時の固定力強化を図るため、「ミゼアセーフ™X」を使用した新固定法を試みた。写真の通り、菲薄した表皮でもリムーバーで剥がし、テープによるスキントラブル等の発生は無かった。

【ミゼアセーフ™Xを用いた固定の実際】



ミゼアセーフ™X

菲薄した皮膚 スキントラブルの発生なし



ミゼアセーフ™X

考察

透析における抜針事故は、最悪の場合は死亡に至る危険性が高い事故である。体動が多く抜針リスクが高い患者に対しては、医療スタッフによる監視に努めているが、多くの業務の隙間をいかくぐって抜針事故は発生する。そのため、固定法の見直し、家族の了承を得ての抑制も検討するケースもある。

従来の固定法においては、テープの選定やα固定の徹底まで行ったが、抜針を防ぐことはできなかった。今回、ニトムズから発売された医療安全対策製品「ミゼアセーフ™X」を使用した固定法へ移行後自然抜針事故は起きておらず、自己抜針も減少した。「ミゼアセーフ™X」での固定とアセスメントの強化によって、抜針予防の改善効果があると実感している。

抜針事故が発生すると、患者への影響やスタッフの対応、交換する材料費等、多くのリソースがかかる。固定法を工夫することによりリスク低減を図ることができ、費用対効果が非常に良いものと考えられた。

お問い合わせは

Nitto 株式会社ニトムズ

本社 〒140-0002 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー7階
東京事業所 〒140-0002 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー7階
大阪営業所 〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋3-3-13 ニッセイ淀屋橋イースト15階
仙台営業所 〒980-6014 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1 SS30 14階
福岡営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1 日本生命博多駅前ビル4階

豊橋事業所 〒441-3104 愛知県豊橋市雲谷町字ハシヅメ11-6
松山事業所 〒799-2425 愛媛県松山市中西外1057-1

●ニトムズ医療器材製品サービスサイト <https://medical.nitoms.com>
*ニトムズは、日東電工株式会社(Nitto)のグループ企業です。



EF 24-02 (PAC)

●製品についてのお問い合わせは TEL 0570-007-006 FAX 0120-210-679
●使用上のご注意 詳細については電子添文をご参照ください。
このカタログの内容は2024年3月 現在のものです。
◆このカタログに記載の内容は、改良などの理由により、予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。